

水産高校生対象の「就業体験」を開催

少子高齢化の進展により、船員不足が将来的に顕在化しつつある内航海運業界において、円滑な世代交代を積極的に推進する必要があります。そこで、若年内航船員確保推進協議会（事務局・沖縄総合事務局）では、5月の「体験学習」（中学生対象）に続く今年度2つ目の取組として、専門的な教育を受けた沖縄水産高等学校海洋技術科の生徒を対象とした就業体験を実施しました。

今回の就業体験は、フェリー栗国、フェリーラザミ、フェリーとかしき、フェリー琉球、貨客船だいとうに、夏休み期間中に27名の2年生が、1隻に生徒4～7名、それぞれ3～4日間乗船しました。出入港作業、航行中の船内巡視の他、貨物等の受付、積込み、乗船客の案内、客室掃除等、実際の船員の仕事を体験することは、生徒たちにとつて有意義な経験となつたようです。

就業体験後のアンケートでは、内航海運の仕事に対して88%の生徒が「仕事に魅力を感じた。」と回答、また84%が「将来の進路選考に大変参考となつた。」、76%が「今後の学生生活及び学習に大きく影響する。」と回答しました。

答しました。これを裏付けるように教師から「体験した生徒がより前向きに学習するようになった。」という声もあり、若年船員の確保・育成に大きい効果が期待できます。

当協議会では、今年度さらに小学生を対象とした「海事教室」を開催し、若年船員の人材確保・育成を推進します。



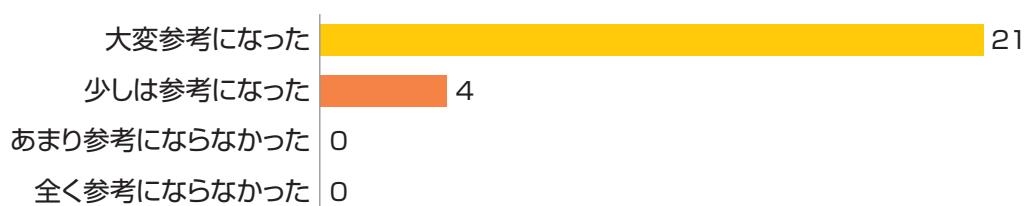
アンケート結果から(有効回答数25)



問 就業体験を通じて内航海運の仕事に関して魅力を感じましたか。



問 就業体験に参加したことで将来の進路選考に参考となりましたか。



問 就業体験に参加したことで今後の学生生活及び学習に対してどの程度影響してくると思いますか。

